

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会
開 催 日 時	平成30年2月8日(木) 午後1時30分～午後4時30分
開 催 場 所	所沢市立教育センター セミナーホール
出席者の氏名	〔委員〕 東京工業大学名誉教授 赤堀 侃司 東中学校長 柴崎 信明 中学校PTA代表 見澤 利美 社会教育課 副主幹 橋本 浩志 スポーツ振興課 指導主事 本間 博 所沢市子ども会連絡協議会 副会長 須田 昭仁 NPO子ども大学ところざわ 代表理事 小出 敦子 所沢第二幼稚園長 根本 綾子 北秋津保育園長 末吉 麻里 椿峰小学校 教諭 柳田 裕子 三ヶ島中学校 教諭 山下 洋
欠席者の氏名	小学校PTA代表 後藤 敏隆 清進小学校長 横須賀 邦子 健康づくり支援課 保健師 齋藤 彩 所沢図書館 主査 田島 直子 市スポーツ少年団副本部長 小高 正俊 保健給食課主査兼指導主事 澤村 文香
議 題	【第1部】 所沢市学び創造アクティブプラン研究委託校研究報告 ・報告会 ・委員長講評 【第2部】 所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会 ○報告 ・今年度の取組について ○協議 ・2月17日(土)における「学校アクティブ研究」発表校の推薦について ・今年度の取組の成果と課題について
会 議 資 料	・平成29年度第1回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会次第 ・平成29年度所沢市学び創造アクティブプラン研究委託校研究報告書 ・翔びたつひろば2月号「トコロんの学校ルポ53」 ・「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業リーフレット ・学び創造アクティブプラン学力向上推進事業(1年次末)に係る進捗状況結果 ・平成29年度所沢市学び創造アクティブプランアクティブ研究・クリエイト研究発表一覧

担 当 部 課 名	学校教育課 電話04(2998)9238 〈出席者〉 内藤隆行教育長、 田中和貴学校教育部長 御菩薩池好行学校教育課指導主事、徳増由美子学校教育課指導主事、 藤田恵子学校教育課指導主事、田中丈仁学校教育課指導主事 真崎孝博学校教育課指導主事
-----------	--

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
司 会 (指導主事)	本日の記録は要点記録とし、発言者は、すべて「委員」として記録する。
	<b>◆開会</b>
司 会	進行は事務局の徳増が担当する。平成 29 年度第 2 回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を開会する。
司 会	赤堀委員長より挨拶をお願いします。
委員長	21 校の各学校の先生方の報告を受けたが、大変優れた発表があった。定例のこの委員会では、毎年委員の皆さんから意見をいただいているため、本日も日頃の活動の状況について報告、気づいたことを忌憚なく発言いただきたい。審議をよろしく願います。
教育長	21 校の発表校では、それぞれ先生方が実践報告ということで自信を持って発表していた。その姿から、学校の中でしっかりと取り組んできたということが伝わり、大変うれしく思う。本日はこの一年間の活動について事務局から報告もあるので、忌憚のない意見と、本日の発表から感じたことを出させていただきたい。本推進委員会の会議の成果を来年度以降の活動に生かしていくため、遠慮なく発言をお願いします。
司 会	事務局より説明を願う
事務局	<p>資料にそって説明を行う。</p> <p>この一年間、指導主事は「学び創造アクティブプランリーフレット」を実際に持って各学校を回り、事業の根幹となる子供観から伝えてきた。学校では、児童生徒が主体的に学び、「わかる喜び」を味わえる授業をめざし、5 点の具体的方策に取り組んだ。1 年次に係る進捗状況調査を行い、9 月と 1 月末の学校の取組結果を一覧とした。この指標は、三年間同じものを使い、経年変化を見ていく。</p> <p>「学び創造アクティブプラン」研究委託校一覧表を各校に送付し、市内の教職員が計画的に研究発表会に参加し、学び合うことができるようにした。なお、地区の授業研究会等と同日に開催とした学校では、参会者の人数が多くなり、研究成果をより市内全体に発信する結果となった。一方、文書発表の学校でも指導者を招き、じっくりと校内で研究に取り組んだことが報告されている。</p> <p>また、平成 29 年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙、学校質問紙の調査結果から、学び創造アクティブプランに関連している項目を抽出し、分析と考察を行った。こちらについては、本市の取組について市民の皆様へ周知するため、所沢市教育委員会の HP に掲載している。</p>

司 会	以後の進行については、委員長に願う。
委員長	2月17日（土）に教育センターで行われる学び創造アクティブプラン研究委託校報告会の発表校を選出する。これは、「学校アクティブ研究」16校の中から上位3校を選ぶものである。事務局から報告を願う。
事務局	委員の方に審査をお願いし、集計した結果をもとに、委員長、小学校代表校長である副委員長が欠席のため、中学校代表校長、そして事務局で調整会議をした結果を報告する。 選考の基準については、①「主体的で対話的で深い学びの授業づくり」のための具体的な手立てがあったか。②学力向上の研究が、学校全体のスタンダード（学校文化）となっているか。③市内の他校にも発信してほしい魅力ある内容の研究であるか。の3つの観点を基に審査を行っていただいた。推薦校として、1校目三ヶ島中学校、2校目椿峰小学校、3校目松井小学校をあげる。
委員長	以上3校が事務局から推薦された。これは、厳正なる審査による得票に基づいたもので、調整会議で合意を得たものである。こちらの3校でよろしいか。（拍手多数）
委員長	拍手多数ということで、この3校を本推進委員会から推薦するものとする。
委員長	本年度の取組と課題については、各委員から意見を伺いたい。
事務局	先日の家庭・地域部会において「アクティブプラン」のリーフレットの取組の中より、地域・家庭の部分について協議を行った。関係各課で行っている施策について、関連している部分についてつなぎ合うことが大事であるということの確認とまとめができた。本日の委員会でも、各委員より意見を伺い、2年次以降の推進事業に生かしていきたい。
委員長	意見を求めるが、その際、リーフレットにある、「学校」・「家庭」・「地域」の中にある項目に基づいて、日頃考えていること、活動について話をいただきたい。挙手ではなく、全員に発言をいただきたいため、順番に発表を願う。
委 員	家庭についてであるが、現在、年長児が小学校に向けて、お手拭きタオルではなくハンカチを準備している。小学校では、自分のものを自分で管理するようになることから、ポケットにハンカチを入れる実践を行っている。また、幼・保・小の連携ということで、保護者にも「早寝・早起き」ということを懇談会やお便りなどで伝え、家庭にも計画してもらいながら、共に作っている。最近では、近隣の小学校に招かれ、トイレの仕方について1年生に習うなど連携がうまくいっており、小学校入学を子供たちが楽しみにしている。地域については、あいさつで、子供たちにこちらから声をかけ、保護者の方にもあいさつしてもらっている。スムーズに小学校生活を送ることができるようにこれからも連携していきたい。
委 員	地域のところであるが、これまでも幼稚園は、近隣の小学校と1年生の授業に参加させていただくなど交流をさせていただいていたが、「幼児教育を学校教育に生かすために幼稚園・保育園・こども園と連携」と明記されたことにより、小学校・幼稚園・保育園・こども園が同じ土台に立ち、子供たちを見ていくことができるようになり、

	<p>ありがたく思う。学校教育課からは、連携をしていく上での基本的な授業や保育の見方について資料を作ってもらったため、学校と幼稚園、保育園、こども園が共通の意識を持てた。幼稚園でもあいさつを大切にし、地域に根ざすということで、小・中と同様に活動をしている。保護者に対し、学校に入る前に、早寝・早起きについては具体的に話を行い、安心して学校に通うことができるようにしている。</p>
委員	<p>地域の教育力を生かした子供たちの学びの場を展開させていただいている。今年度は100名近い子供たちを受け入れた。子供たちに例年と違う変化が見られるようになった。子供たちのふりかえりの中に、「毎回、友達が増えていく。」という今までにないコメントが数多くあったことである。学校教育の中で、コミュニケーションの在り方等を先生方が工夫されているからであると考えている。せっかくのふりかえりであるため、今年度から、子供たちに「ラーニング・ストーリー」として、自分に自分自身の学びを返していくことを行っている。「ラーニング・ストーリー」はもともとニュージーランドの幼児教育の考え方から生まれたものである。「子ども大学ところざわ」でも、ラーニング・ストーリーを展開している。</p>
委員	<p>所子連では、毎年かるた大会がある。市内の430名ほどの児童が参加した。朝9時から、夕方4時ごろまでの長時間の大会となる。競技に勝つという目的があるが、もう一つ「礼儀を正しくする」という日本人の大切にすべき部分を大切にしている。中でも特にあいさつが大切である。本事業の「あいさつから関係をつくり、地域行事への積極的参加」に関連して意見を述べる。一昨年、社会教育委員として全国大会に出席した際、あいさつによって子供たちの、市全体の雰囲気が変わったという報告をされた、九州の市があった。あいさつが市内全域で行われるようになったことで、あいさつをしない人は見知らぬ人だということになる。所沢市内も不審者の情報がよくあがるが、あいさつによって無くなればよいと思う。この表記をもう少し力強いものにするので、所沢市から新しい発信ができるのではと感じている。</p>
委員	<p>本日の研究発表を聞いて、アクティブ・ラーニングについて先生方が、あれほど一生懸命研究をされていることに感謝し、子供たちに力がついてくればよいと思う。家庭と学校でのICTの積極的な活用という点においては、家庭では「ノーメディア・チャレンジ」をがんばっているのに、学校では「タブレットの活用」というのは不思議な感じがする。社会的な現状として、パソコン、コンピュータの活用は普通のことになっている。「ノーメディア」とはむだな時間をメディアで費やすことのないよう、魅力的なタブレットや、ICTの活用ができるとよい。時間をつぶすためのメディアではないということを本人たちが考えられるとよい。</p> <p>本日の発表を聞いて、いろいろな考え方をされている先生方がいるが、必ず成功をしている。それに対して取り残された10%、苦手意識のある10%に対してどのような支援が組めるかということが大事でないかと考える。自信、自立的なことを重要視してほしいが、この部分は、家庭での部分が大きい。地域でのあいさつについては、海外に行くと、普通に「ニーハオ」とあいさつをしてもらったり、「ボンジュール」などとあいさつをしたりするのが普通であるが、日本はそのようなことがない。外国</p>

	<p>に行くと、そのような言葉が出てこない。前向きな日本人であることが大事ではないか。</p>
委員	<p>新体力テストについて毎年報告をしているが、今年度は、中学校で今までの記録を更新し、県平均と比較しても高い結果を残している。小学校では昨年度と同じ数値である。運動好きの子の育成を図っている小学校に対して、中学校では専門的な先生方の指導が行われ、伸びていくと見ている。ICTの積極的な活用では、現在、授業で、跳び箱を例にすると、タブレットで友達の動きを写し、「このようところで膝が伸びていたよ。」などの「目がおへそを見ていたよ。」などのアドバイスをし合う様子が増えており、有効的な機器の活用となっている。家庭に目を向けると、保護者以上の世代の運動量が落ちている。運動ができる取組として、親子逆上がり教室など、親子で実際にやってみることを投げかけている。所沢シティマラソン大会でも中学生ボランティアの協力は、市民ランナーの方にも大変喜んでいただいている。</p>
委員	<p>研究委託校発表を昨年も聞いたが、各学校工夫があって素晴らしく、改めて感心した。ICT関係の取組の発表があったが、「ガリ版」で卒業文集を書いていた自分たちの時代からは、隔世の感があると感じた。三ヶ島中学校の朝鑑賞の報告は、新聞で拝見をして、すでに知っていたが、本日、生徒の「買い物でももの見方が変わった。」という報告が大変印象になった。直接、数学ができるようになるというような学力につながるとは限らないが、大事なことであると感じた。社会教育において、様々な体験活動は、朝鑑賞と同じ考えである。将棋大会、写生大会等を開催し、直接学力につながるとは限らないが、間接的には、学力につながっていくものになるのではと思っている。社会教育は意義のあることであり、改めて、気概を持って仕事に取り組んでいきたいという気持ちになった。</p>
委員	<p>小学校代表なので、アクティブプランの「学校」の中の5つの視点で話をする。ICTの活用では、子供たちは教師の言葉を聞くだけではなく、目で見ないと分からないことは視覚化して教えるということも大事であることを毎日の授業を見ていて感じる。絵を描いて見せるのもいいが、映像であったり、写真であったりすると、子供たちの反応や理解度が違ってくる。「主体的で対話的で深い学び」では、本日の発表の学校でも多く紹介されていたが、子供たち同士の話し合い、少人数での話し合いということを重要視し、取り組んでいるところである。友達とみんなで相談することがうまく進むには、小学校では友達関係や人間関係がうまくいっていないと、言いたいことも言えなかったり、うまく話し合いがグループでまとまらなかったりということがあがる。先生たちはそのようなことを気にしながら常に授業を行っている。</p>
委員	<p>中学校の発表を見て、今まで中学校は、教科担任制で研修をすることが難しかった。しかし、学校の中で共通、例えば学活や教科を越えてのテーマを求めることができるようになると変わってくる。中学校は若手、中堅・ベテランと二極化しているが、若手が大変育っており、学校の中核となって活躍をしている。ベテランはずっとしゃべる授業が多かったが、若手の先生が中心となって研究をやることに大きな成果があったと考える。ICTについては各校で取り入れており、足りなくなる状況となっている。</p>

	<p>タブレットについても止まってしまうというような状況がある。教室のネット環境が整備されると更に進むと考えられる。授業改善については、改善したことが、最終的には全国や県の学力調査の数値として表れていくとよい。</p>
委員	<p>21校の学校の発表を聞いたが、素晴らしい発表であると思った。本校でも学び創造アクティブプラン1年目ということで、今、取り組んでいるが、今日の発表を参考にさせていただくことプラス、更に子供たちのために、更なる工夫をしながらやっていきたいと思う。学校として、「主体的・対話的で深い学び」を作る授業づくりについて、「学習の定着化と教師の見届け」について話したい。「教育は人なり」というが、その一言に尽きると思う。いつも頭にあるのは、北海道の旭川出身の作家、三浦綾子さんの言葉で、「詩というものは不思議なものだと思う。鉄砲や刀では人の心まで変えることはできないが、たった一行の詩が人の奥底にいつまでも生きることがある。」とある。先生方の一言が子供たちを動かしてくれるのだということ。勇気づけの言葉や発問の工夫は、先生方の一言一言が、子供にやる気を持たせ、更に頑張ろうという気持ちになり、分かる喜びにつながっていくと思った。本日発表のあった21校についても、更なる研究を深めていただくことを期待している。</p>
委員長	<p>いいまとめをありがとうございました。今のいろいろな立場の委員の御意見を委員会の中で反映していただきたい。事務局にお返しする。</p>
司会	<p>続いて、部長より謝辞を申し上げる。</p>
部長	<p>委員の皆様、本日はありがとうございました。短い時間にも関わらず、集中して御協議をいただいた。推進委員会の前に委員長から3クール目ということで、非常にいい取組であるということを書いていただいた。これは、教育委員会としても大変ありがたいおほめの言葉である。委員の皆様のご提案の中でも、それぞれ担当の立場から、成果が出ているという言葉を書いていただいた。特に感じたのは、本事業が「大人も子供も共に学び続けるまち」ということを目指しているということである。その意味で、学校・家庭・地域が一体となった取組が「子ども大学」に来ている子供たちに浸透し、幼稚園や保育園の子供たちがスムーズに小学校に入学し、中学校にあがってからも、学びが継続されている等、これらの事実が成果であると思っている。今日の貴重な御意見を2年次となる「学び創造アクティブプラン」に引き継ぎ、今後、更なる学校・家庭・地域が一体となった取組で、所沢市の学力向上に取り組み、教育委員会としても全力で支援をしていく。</p>
	<p>◆閉会</p>
司会	<p>平成29年度第2回所沢市学び創造アクティブプラン推進委員会を閉会する。</p>